

令和 3 年 8 月 22 日

令和 2 年度 特別の教育課程の実施状況等について

都・道・府・県		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
(外 校)	文化杉並学園	私立

1. 特別の教育課程を編成・実施している学校及び自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学 校 名	自己評価結果の 公表ウェブサイト名・URL 等	学校関係者評価結果の 公表ウェブサイト名・URL 等
文化学園大学杉並高等学校	無し	無し

※結果公表に関する情報について、ウェブ上で公開している場合は公開しているウェブページの URL、ファイル名等を記入すること。ウェブ以外で公開している場合は、公開している情報を閲覧できる場所・方法を適宜記入すること。

※必要に応じて行を追加すること。

2. 特別の教育課程の内容

(1) 特別の教育課程の概要

グローバル化時代に対応できる人材の育成を目指し、「言語技術」「科学リテラシー」「価値観」「智慧」を育成するため、カナダ ブリティッシュ コロンビア州（以下 BC 州）の教育を取り入れる。BC 州カリキュラムで履修する一部を日本の単位として認めるものは下記のものである。高校 1 年 生物基礎（2 単位）は Science10（週 5 時間）、コミュニケーション英語 I（3 単位）は Composition10 及び Literary Studies10（週 10 時間）、総合的な探究（1 単位）は Life Education（週 1 時間）で読み替える。2 年生 倫理（2 単位）は Explorations in Social Studies11（週 4 時間）、数学Ⅱ（4 単位）は Pre-calculus11（週 5 時間）、物理基礎（2 単位）は Physics11（週 4 時間）、英語表現 I（3 単位）及び英語会話（2 単位）は Composition11 及び Literary Studies11（週 10 時間）、総合的な探究（1 単位）は Life Education（週 1 時間）で読み替える。3 年生 コミュニケーション英語Ⅱ（4 単位）及び英語表現Ⅱ（4 単位）は English Studies12（週 10 時間）、総合的な研究（1 単位）は Life Connections（週 1 時間）、数学 B（2 単位）は Pre-calculus12（週 5 時間）で読み替える。

(2) 学校又は地域の特色を生かした特別の教育課程を編成して教育を実施する必要性

グローバル化時代に対応できる人材の育成を目指し、「言語技術」「科学リテラシー」「価値観」「智慧」を育成するため、カナダ ブリティッシュ コロンビア州（以下 BC 州）の教育を取り入れる。デュアルカリキュラムを行うことにより、次世代を生き抜くために必要と

される「異なる文化背景を持つ人間同士が協働して問題を解決していく力」を養う。このような力を身に付けるためには、異なる文化背景における思考法の違いを理解する必要がある。BC州カリキュラム主体の授業を実施することで、生徒は様々な科目をただ英語で学ぶだけでなく、東洋とは異なる思考のバリエーションや、問われる問題と求められる回答の違いも体験する。例えば数学では正解を得ることが最大の目標ではなく、「なぜその正解を求めた方法が妥当なのか」「他のその正解を求める方法はないのか」などといった項目も設問に含まれており、それを言語化することが求められる。このような教育を受けることにより、自分の導いた方法・結論を再度別の視点から考えるという批判的思考力を身に付けることが出来る。

(3) 特例の適用開始日

令和2年4月1日

(4) 取組の期間

未定

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- 計画通り実施できている
- ・ 一部、計画通り実施できていない
- ・ ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

※(1)で「一部、計画通り実施できていない」又は「ほとんど計画通り実施できていない」を選択した場合は、必ず記載する。

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- 実施している
- ・ 実施していない

<特記事項>

入学前の学校説明会において、ダブルディプロマコース希望者へのカリキュラムの詳細な説明を特別に行い、4月の入学後直ぐに保護者会で高校3年間のカリキュラム編成についての説明を行う。また高校1年の10月に生徒及び保護者に再度カリキュラムについて説明を行っている。

#### 4. 実施の効果及び課題

##### (1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している学校の教育目標との関係

BC 州の授業において、教員はファシリテーターに徹し、常に生徒主体の PBL 型の授業を行っている。また BC 州では常に協働作業が重視され、自分の意見をいかに論理的に説明できるかと、他者の意見が正しいかどうかの判断が求められる。そのような授業を経験しているので、大学受験においても授業で培われたプレゼンテーション力を用いて、自己アピールや面接でアウトプット力を発揮し、難関海外大学をはじめ、国内の難関大学にも合格している。

BC 州カリキュラムは知識の習得ではなく、知識の活用方法や得た知識の検証を適切にすることが目的となっている。そのため、知識から応用までの施行を中心に求める日本の大学入試を考えた際に、一般入試で進学希望を持つ生徒や保護者からは不安の声が上がっている。さらに大学入学共通テスト野時代に BC 州の統一試験が行われるため、国内大学受験希望者への進路指導の対応を考慮する必要がある。

##### (2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

BC 州のカリキュラムを BC 州の教員により PBL 型の授業が行われることにより、英語力のみならず思考力、判断力、表現力、コミュニケーション力が向上し、グローバル化に対応可能な生徒が育っている。海外大学進学者が約 25% という数字からも見て取れる。

#### 5. 課題の改善のための取組の方向性

国内大学入試を希望する生徒には BC 州の統一テストの時期を BC 州教育省と協議するなど、時期の変更を考える必要がある。